

平成27年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
1. 地域の教育力の向上（地域連携事業の推進） ①小中学校等との協働事業を推進する ②地域の小中学校と生徒間交流を図る ③地域を教材とした探究的・体験的学習活動を行う	・教育力向上推進事業（協議会、研究授業）	[地域領域] 総務課 地域活性化G	・地域からは、地域の教育力向上のために、本校のリーダーシップが求められている。	【成果指標】 協議会や研究授業等を通して、地域の教育力の向上に貢献できた。	・協議会や研究授業、公開授業によって、地域の教育力の向上に貢献できたと考える教員の割合が A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	教員へのアンケート
	・科学実験（小学校）、学習交流会（中学校）		・本校生が、地域の小中学生と交流し互いを高めあう機会や、学習したことを地域社会に還元できる機会が少ない。	【成果指標】 交流イベントを通して、地域に貢献できたという満足感や達成感を持つことができた。	・学習交流やイベント参加生徒のうち、地域に貢献でき、自分も成長できたと感じた生徒の割合が A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	参加生徒へのアンケート
	・講演会、実践的英語講座、朝市出店販売等	地域理解G	・地域への興味や関心は高まっているが、主体的に関わり、理解を深めようとする積極性に欠けている。	【満足度指標】 課題意識を持って地域と関わり、地域への理解を深めた。	・積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることが A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった	A+Bの割合で判定。 70%未満の場合は改善策を検討する。	参加生徒へのアンケート

平成27年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
2. 学習意欲と深い思考力の向上（アクティブラーニングの推進） ①個に応じた学習指導の充実と発展的学力を養成する ②ICTを活用した授業改善を行う ③生徒の協働（協調）学習を取入れた授業改善を行う	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導 発展学習講座 学年別学習会 	[進路領域] 教務課 学力向上G	・生徒の学力差が拡大しており、個々の学力や習熟度に応じた指導が不可欠である。	【成果指標】 生徒の実態に即した学習課題やワークシートを活用した指導が行われ、生徒の学力が向上した。	・思考力、判断力、表現力が向上したと考える生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	授業評価
	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境の整備と指導法の研究 		・昨年度1，2年各HR教室にプロジェクタが配置され、効果的な活用法を研究することが急務である。	【成果指標】 ICT機器を活用した授業により、生徒の学習意欲が喚起された。	・ICT機器を活用した授業により、学習意欲が高まった生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒アンケート
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能動的な学習を支援する指導法の研究 		・生徒同士が教え合い学び合う場面に授業に導入し、生徒が主体的に学習できる環境を整える必要がある。	【成果指標】 授業で、生徒が効果的に考察する機会や、表現(実践)する機会を設定できた。	・授業改善により、学習指導のスキルが高まったとする教員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	教員アンケート

平成27年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
3. 人間力の育成 (普通科・総合学科の特性の伸長と協働) ①3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導を実践する ②生徒の主体的・能動的な活動により学校行事を活性化する ③両科生徒が両科の行事へ相互に参加する	・3年間を見通した指導体制の確立	[進路領域] 進路指導課 キャリア教育G	・入学生の学力低下と学力差の拡大が見られる。進路実現に向け、より計画的で組織的なキャリア教育と学習支援が必要である。 ・これまで蓄積した、模試を指標とした取組が、十分に進学指導に生かされていない。 ・第1志望の企業の内定率を高めるため、必要な学力を担保し、キャリア意識を高める支援が必要である。	【成果指標】 模試結果を活用したPDCAにより、合格の可能性が高まった。 【成果指標】 計画的な就職指導により、第1志望の内定率が高まった。	・入学当初の模試より模試成績を向上させた生徒が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 ・第1志望の内定率が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・Dの場合、改善策を検討する C・Dの場合、改善策を検討する	模試結果 (10月模試) 可否結果
	・生徒の主体的、能動的活動を支援		・総合学科の取組であった挨拶練習を普通科生徒にも取入れ、来校者から「挨拶のできる学校」との評価を得ている。	【満足度指標】 生徒一人ひとりが、「自分は挨拶をしている」と評価できた。	・自分はTPOに応じて、適切な挨拶が A できている B ある程度できている C あまりできない D できない	A+Bの割合で判定。 70%未満の場合は改善策を検討する。	生徒アンケート
	・両科の特色ある取組へ相互に参加	進路指導課 キャリア教育G	・普通科は論理的思考力、総合学科は総合的実践力を高める指導の改善に努め、相乗効果を生み出すための新たな取組を考える必要がある。	【満足度指標】 各種行事等の企画・準備・運営において、両科の生徒が互いの特性を発揮できた。	・両科の生徒が協働して行事に取り組み互いを高め合うことが A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった	A+Bの割合で判定。 70%未満の場合は改善策を検討する。	生徒アンケート